

B. 外科（指導責任者 久留宮 康浩）

到達目標

がん治療、腹部救急疾患、外傷治療など多岐にわたる外科診療について、一般外来研修および病棟研修を通じ、外科医としての診療態度、診断、検査、治療のプロセスを理解する。また、救急医療における外科的疾患、外傷に対する検査および治療を立案し実践する。1年目8週間、2年目4週間の研修によって到達目標B「資質・能力」1～9項目を達成するとともに、到達目標A医師としての基本的価値観（プロフェッショナリズム）を身に着け、到達目標C基本的診療業務ができるようにする。

【具体的行動目標】

1. 診療姿勢

- 1) 外科診療に必要な基礎的知識を習熟し、臨床応用できる。
- 2) 外科診療に必要な検査・処置・麻酔手技に習熟し、それらの臨床応用ができる。
- 3) 外科診療を行う上でのチーム医療の大切さを理解する。

2. 診断法及び検査法

- 1) 頭頸部、胸部、乳房、腹部、背部、肛門、四肢などの触診による診断ができる。
- 2) 血液検査、血液ガス、肺機能検査、心電図による病態の把握ができる。
- 3) 単純X線検査の読影ができる。
- 4) 腹部血管造影法、四肢血管造影法などの検査と診断の実際を経験する。
- 5) US、CT、MRIなどの検査の適応を決定し、読影することができる。

3. 治療法

- 1) 縫合など外科的基本手技を行うことができる。
- 2) 初期救命救急処置を行うことができる。
- 3) 消毒法の基本的概念を学ぶと共に行うことができる。
- 4) 基本的麻酔の概念を学ぶと共に行うことができる。
- 5) 術前術後の患者管理を理解し、立案できる。
- 6) 術後管理、水・電解質管理について述べることができる。
- 7) 感染予防、処置、抗生剤の使い方について述べることができる。
- 8) 緊急止血法を行うことができる。
- 9) 急性腹症の診断とその初期対応ができる。
- 10) 救急蘇生術を行うことができる
- 11) 高カロリー輸液法について述べることができる。
- 12) 経腸栄養法について述べることができる

4. 経験すべき症状および疾患

下記の頻度の高い症状を経験し、適切に対応できる

- ・ショック
- ・るい瘦
- ・黄疸
- ・吐血・喀血

- 下血・血便
- 嘔気・嘔吐
- 腹痛
- 便通異常（下痢・便秘）
- 外傷
- 終末期の症候

経験すべき疾患

- 1) 急性腹症 : 急性虫垂炎 胆石症 腸閉塞 胃十二指腸潰瘍穿孔など
- 2) ヘルニア
- 3) 悪性腫瘍 : 乳癌 胃癌 大腸癌など
- 4) 肛門疾患 : 内痔核、痔瘻など
- 5) 血管疾患 : 下肢静脈瘤 閉塞性動脈硬化症 腹部大動脈瘤など
- 6) 高エネルギー外傷

※ 下線のある疾患は厚労省の定める経験すべき 26 疾患

5. 英文抄読会でのプレゼンテーション

医学英文論文を翻訳し、語学能力の向上と科学的洞察力を深めると共に、発表することにより人の前でプレゼンテーションする技能を身につけることができる

【方略: LS】研修指導体制と週間スケジュール

- 1) オリエンテーション 第1日目 8:00から 4A病棟
 - 2) 病棟および外来研修
 - ①指導医とともに入院患者を副主治医として担当する。
 - ②指導医のもと回診をおこなう。
 - ③症例検討会で討議する。
 - ④指導医とともに手術、検査に参加する。
 - 3) 外来研修
 - ①指導医または上級医の指導のもと、外科外来診療で初診及び再来新患の問診、診察、病状説明、検査・治療の指示を行う。(2年間で10回の一般外来研修、外科外来研修記録提出)
 - 4) 救急研修
 - ①指導医のもと救急入院患者の初期対応をする。
 - ②その後、副主治医として担当する。
 - 5) 症例検討会
 - ①外科入院患者の症例検討会に参加する。
 - ②消化器カンファレンスに参加する。
- 5) 1年目研修期間中、1週間胸部外科（心臓外科・呼吸器外科）研修を行う。

【週間スケジュール】

	月	火	水	木	金	土
早朝	Short Conf	Short Conf	英文抄読会 (隔週)	Short Conf	Short Conf	
午前	9:00 回診 9:30~ Op	9:00 回診 9:30~ Op	9:00 回診 外来 9:30~ Op	9:00 回診 外来 9:30~ Op	9:00 回診 外来 9:30~ Op	
午後	Op	Op	Op	Op Conf (15:30)	Op	
夕刻		消化器 Conf			振り返り	

【評価】ローテート時に自己評価後、指導医の評価を受け、インターネット等を用いた評価システムを利用して臨床研修委員会に提出する。